

## XI 環 境

# ほたるの住める環境づくり

北九州市立二島市民センター 館長 河村 峰 由

### ○事業の目的

二島校区は北九州市若松区に位置し、まだまだ手つかずの自然が残っており、その豊かな環境と先人の熱い思いを後世まで大切に残す為、まちづくり協議会が中心となり、二島市民センターと共に、以下の2つの目的を定め、各自治会、諸団体に呼びかけ「ほたるの住める環境づくり」を協力して実施することとなった。

- 1 この事業を通じてまずは校区の大人たちの交流を図り、地域の連携等を学ぶ機会にする。
- 2 ほたるという小さな生き物を通して、生きているもの全ての命の大切さを知ると共に心優しい人情味あふれる故郷づくりを目指す。

### ○事業の内容と経過

ほたるの生息には、水質が良く流水が豊かな場所があり、夏でも水温の上昇を防ぐ木陰がある等の自然条件が必要だとされている。

二島校区の現状は、水に関しては、校区を北から南に貫流する原田川源流に市内有数の名水が湧き出ている場所があり、その下に一番池・二番池・三番池とあふれんばかりの水を湛えている調整池があり、そこより流れがさらに原田川へと続いている。そのおかげで水がかれる心配のないほたるの居場所が保たれている。

次に町全体がきれいなこと、ゴミがほとんど散らかっていないこと。これが一番ほたるの生息にとって重要なことで、ここ二島には、年間を通じて定期的に清掃活動を行う多くの団体が存在し、その全てがまちづくり協議会に所属している。各団体は、直接にはほたるの里関連事業には関係していなくても、水源の周辺を含めまちをきれいにする、つまり環境を良くするという点でほたる保護につながっている。

活動は、まず地域の公園清掃活動の面では、二島校区に存在する各公園に概ね公園愛護会が存在し、それぞれが独立して活動を行っている。さらにこの校区には原田川を含む3本の川が流れ、それぞれに河川愛護会があり、原田川ほたるの里近くの四番池広場も、旧調整池の関係で愛護会があり、さらに二島中学校区地域会議・二島市民センター花クラブ・水汲み場管理クラブ・ごみひろい隊等多くの団体が事細かな清掃活動を年間を通じて実施している。

この様に二島校区では、ごく自然な形で多くの方が参加する活動が、普通に且つバランスよく今日まで保たれてきた。しかしながら昨今の社会情勢を考えると、「いつか崩れるときがくるのでは」との不安要素も否定できない。そこで、まちづくり協議会が核となり、今後もこのような環境整備活動が継続される土壌を残す為、動き始めた。

本年度の活動経過としては、平成20年度4月のまちづくり協議会定例会議の場において、今後の活動目標に「原田川ほたるの里及び四番池広場周辺整備事業」を定め、憩い・ふれあい・交流の場づくりの為の周辺環境整備に着手することとなった。

第1段階として、今日まで清掃作業一つを取っても、前に述べた公園・河川・調整池広場等の各愛護会が、個々バラバラに行っていた活動を、市民センターが中心となり、各代表と協議を重ね、目的を一つに地域が連携をして行われるよう各団体の活動時期を調整した結果、今回、効率よくほたるの里を中心に周辺の整備事業を行うことができた。

また、第2段階の活動として清掃事業の他、

- 1) ほたるの里周辺の設備、特に看板類の新規作成や立て替え、花壇の整備を行った。
- 2) まちづくり協議会主催の健康歩きイング大会の本年度コースを、ほたるの里を通るコースで実施、地域の方にほたるの里を再認識していただいた。
- 3) 市民センター内にほたるの里情報コーナーを設け、ほたる飛翔情報を細かに掲示し、来館者に情報提供をすることによりこの事業に関心を持っていただくよう広報を行った。
- 4) TV等で原田川ほたるの里が放映されるや、数の少ないヘイケボタルを持ち帰るものが出た為、お持ち帰り禁止のポスターや、ほたるみまわり隊を組織、巡回を実施した。

以上、場当たりの活動との批判は免れないが、環境整備で終わりがちな活動にふくらみが見えた。さらに今年度（20年度）、再び行政の協力を得ることとなり、北九州市が地域を応援する校区まちづくり〈実践〉事業の選定を受け、名実共に校区全体の事業としてスタートできた。

### ○事業の成果と今後の課題

今年度の活動を通して、ほたるが一部の関係者や、一つの団体の所有物ではなく校区全体における環境のシンボルとして、大切に守り育ててゆくとの思いが、地域に根付くきっかけとなった。又、この事業を一過性のものとして終わらせるのではなく、今後も地域全体の継続的な活動としていく素地が出来上がった。

今後の課題或いは不安材料として、ほたるの里上流側の隣接地に、個人の産業廃棄物処理場（土捨て場）があり、土砂の混じった水が流れ込む恐れがあることがあげられる。又、ほたるの名所として名前が広がることで人が集まるようになり、環境が荒らされる不安もある。両問題とも現在まちづくり協議会で対策を検討中である。

### ○今後の取り組み

現在のシステムを維持しつつ、更なる事業の発展のため、次世代特に子どもとその親の世代に引き継ぐ活動を実施する。その手始めとして、地域にある二島小学校との連携事業を市民センターが発信源となり現在調整中である。

実は二島校区にはゲンジボタルの飛翔する場所が数箇所存在する。そのいずれの場所も数では原田川に及ばないにしても、何らかのつながりがあるがごとく、原田川のほたるが増えると他の場所にも増えるという現象である。このような関連のある場所

の一つに二島小学校近郊がある。専門家が言うには、小学校敷地の裏にある用水路を整備するとかなりの数のほたるが期待できるとのこと。しかしながら現状はゴミや汚水が流れ込む環境にあり、今後、親子での清掃や、水質調査を通して各家庭の関わり方を学ぶ絶好の教材として、「ほたる＝人間」という環境問題について、活動する事業を次年度に学校側と協議、実施する計画である。



原田川清掃



町内清掃



ほたるの里清掃



公園清掃

問い合わせ先: 〒808-0102 北九州市若松区東二島二丁目7番3号  
北九州市立二島市民センター  
電話 093-791-1552 FAX 093-791-1553